

認定 NPO 法人キッズドア 2024 冬 子育て家庭アンケート調査結果報告

2024 年 11 月 認定 NPO 法人キッズドア理事長 渡辺由美子

目次

認定 NPO 法人キッズドア 2024 冬 子育て家庭アンケート調査結果報告	1
1. アンケート調査概要	2
2. アンケート結果まとめ	2
3. アンケート結果概要	3
3.1 回答者の基本属性.....	3
3.2 子どもの大学や短大、専門学校等の受験.....	7
3.2.1 大学等受験や進路選択への家庭の経済状況の影響.....	7
3.2.2 大学等受験に必要なお金と準備手段	9
3.2.3 大学等受験での保護者のストレスや負担	14
3.2.4 大学等受験への公的支援	15
3.3 コロナ禍における特例貸付（緊急小口資金・総合支援資金）の利用	18
3.4 困っていることや支援がほしいこと	23

社会を良くするたしかな一歩



この事業は中央共同募金会「赤い羽根福祉基金」の助成を受け実施しています。

赤い羽根
福祉基金

1. アンケート概要

- 目的：コロナ禍の特例貸付の利用や返済、子どもの大学等受験について実態を把握することで、困窮子育て家庭の抱える課題を明らかにし、必要な支援を検討するための示唆を得ること。
- 対象：キッズドア・ファミリーサポート登録世帯
- 調査期間：2024年10月29日～2024年11月9日
- 回答数：1,160件（回答率：27%）

2. アンケート結果まとめ

- 回答者の基本属性
 - ✓ 年齢は40代が約半数であり、居住地は東京を含む南関東を中心に全国に広がっている。
 - ✓ 85%が母子世帯、8割が世帯所得300万円未満。貯金のない家庭が32%、借入のある家庭は42%。
- 子どもの大学や短大、専門学校等の受験
 - ✓ 高校生以上の子どもがいる保護者のほとんどが、家庭の経済状況が受験に影響していると回答。具体的に考えられる影響では、「塾・予備校に通うことができない」(75%)、「受験料を抑えるため、受験校数を絞る」(65%)、「進学先が自宅から通える範囲の学校に限定される」(56%)などが上位。
 - ✓ 受験費用（塾や予備校、模試、受験料、入学金等の納付金など）について、半数以上が「100万円以上」と考えており、受験費用の準備手段として、約6割が何らかの借入を考えている。
 - ✓ 保護者の75%が、子どもの受験のストレスや負担として、「受験や進路について、子どもが家計の状況を気にしている」を挙げた。
 - ✓ 保護者のほとんどが受験への公的支援があれば子どもの進路選択の幅が広がると考えており、具体的な支援として、「進学後の給付型奨学金の対象拡大」、「受験料の補助・免除」、「受験に活用できる奨学金の拡充」、「塾・予備校費用の補助」のいずれも7割以上が希望している。
- コロナ禍における特例貸付（緊急小口資金・総合支援資金）の利用
 - ✓ コロナ禍に緊急小口資金等を利用したのは全体の約2割。利用者のほとんどは、日々の生活のために借入が絶対に必要であったと回答。
 - ✓ 利用者の8割以上は、住民税非課税等で、借り入れた資金の返済を免除されている。一方で、返済免除とならなかった家庭のほとんどが返済の負担を感じている。収入がわずかに非課税の基準を超えたことで返済が必要となったケースもあった。
- 困っていることや支援がほしいこと
 - ✓ 住民税非課税や児童扶養手当受給の所得上限の見直しを求める回答が多く、所得が境界線で何の支援も受けられない、低所得ばかりでなく隠れた貧困にも支援がほしい、収入を増やそうと頑張ると児童扶養手当はなくなり、色々な支援も審査で落ちるといった声が寄せられた。
 - ✓ このほか、食料品や日用品、電気・ガス等の物価高騰による生活への影響、進学時にかかる制服代や入学金等の工面の難しさを伝える声、塾や習い事、体験活動への支援、不登校の子どもへの支援、18歳以上の子どもへの支援、子育て中でも働きやすい仕事を求める声や、支援の地域格差の改善を求める声などが寄せられた。

3. アンケート結果概要

本アンケートでは、コロナ禍における特例貸付である緊急小口資金・総合支援資金（以下、緊急小口資金等とする）の利用及び返済状況、子どもが大学や短大、専門学校等を受験する上での経済的な課題と必要な支援についての意識を調査した。結果について以下に述べる。

3.1 回答者の基本属性

回答者のほとんどが「女性」（95%）であり、年齢は「40代」（49%）が約半数と最も多く、「30代」（26%）・「50代」（20%）が続く。居住地は東京都を含む「南関東」（36%）を中心に、「近畿」（15%）や「九州」（10%）など全国各地に広がっている。

世帯構成は「母子世帯」（85%）が8割超を占め、「ふたり親世帯」（10%）が1割である。生計を一にする家族の人数は「2人」（37%）や「3人」（32%）が多い。扶養している子どもの人数は「1人」（42%）や「2人」（33%）が多く、子ども3人以上との回答は全体の21%であった。子どもの学校種として最も多いのは「小学校」（51%）であり、次いで「中学校」（34%）、「高等学校」（31%）となっている。

2024年の世帯所得は、「100～200万円」（32%）が最も多く、所得200万円未満が全体の約半数、所得300万円未満が8割を占めている。また、「貯金はない」（32%）との回答が全体の約3割、貯蓄10万円未満が約4割を占めた。「借入がある」（42%）との回答は全体の約4割であった。

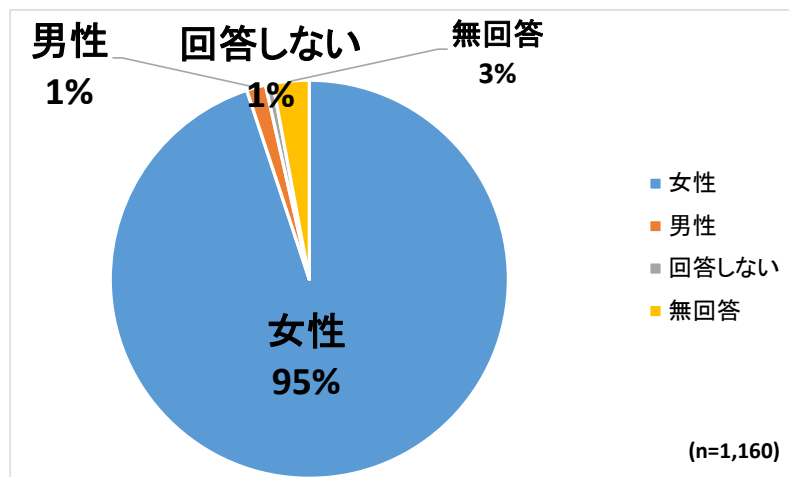


図 1 性別

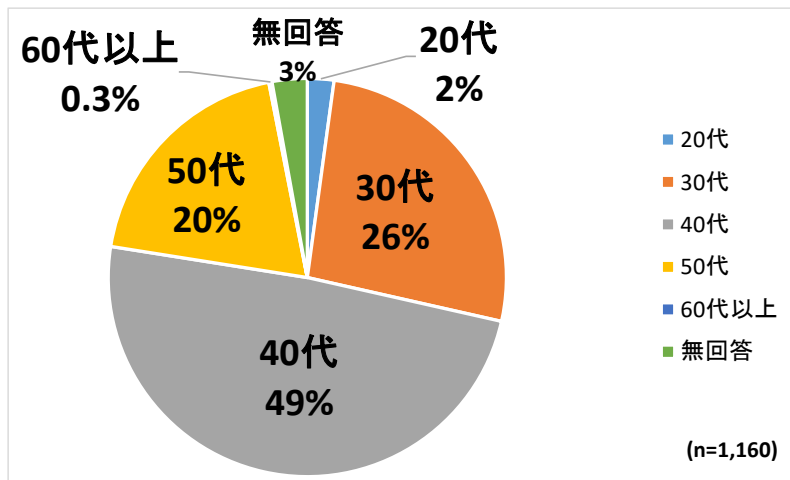


図 2 年齢

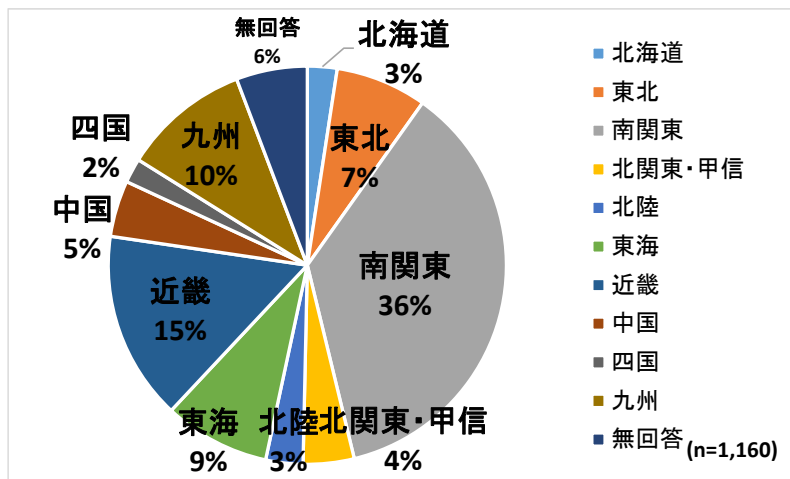


図 3 居住地

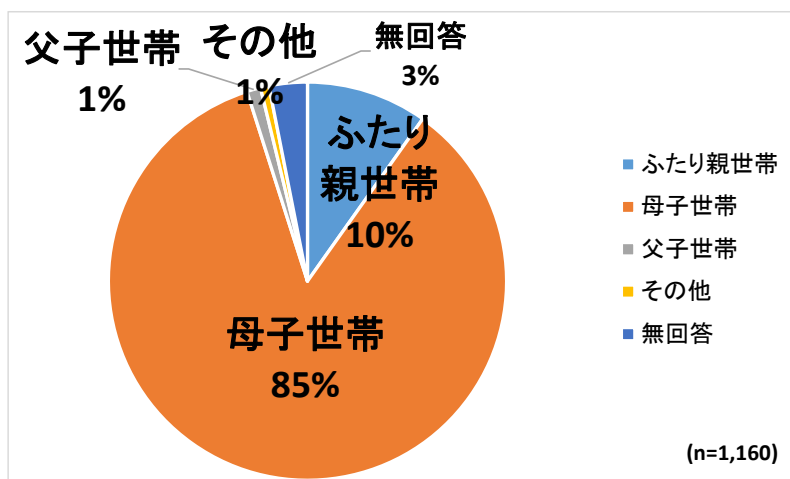


図 4 世帯構成

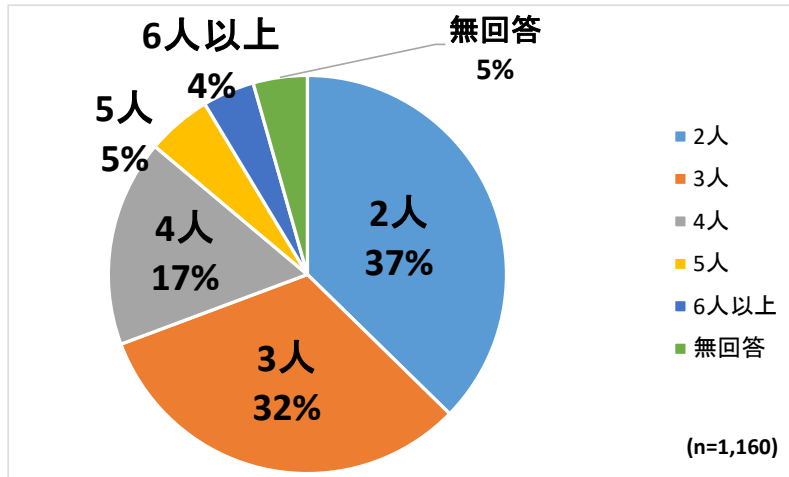


図 5 生計を一にする家族の人数（回答者自身を含む）

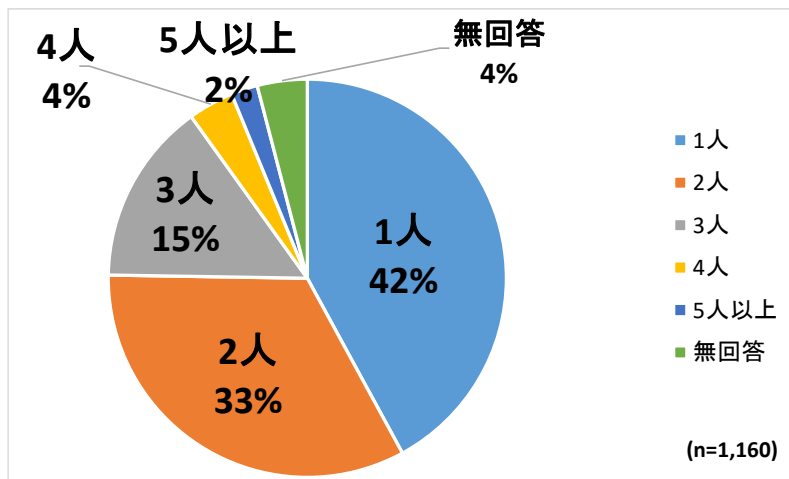


図 6 扶養している子どもの人数

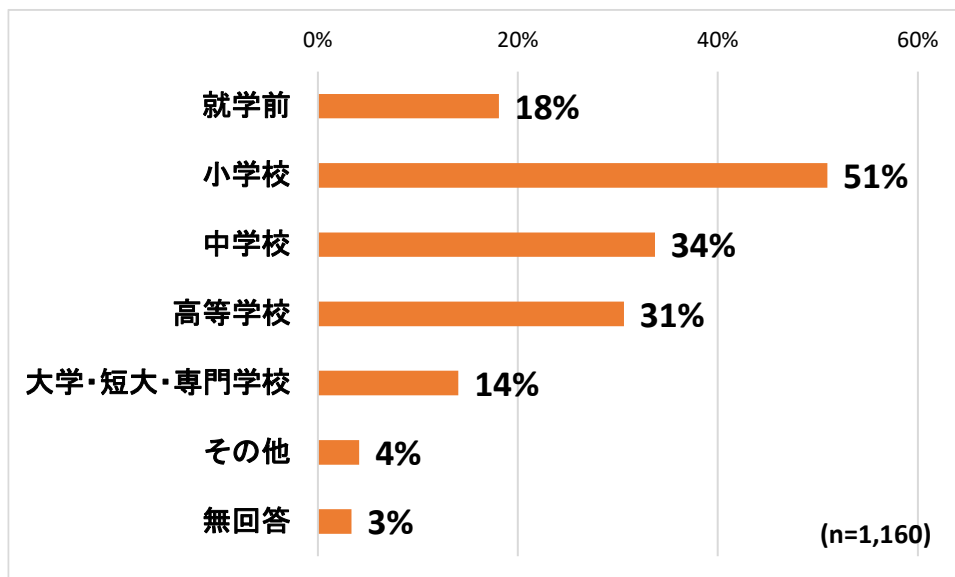


図 7 子どもの学校種（複数回答）

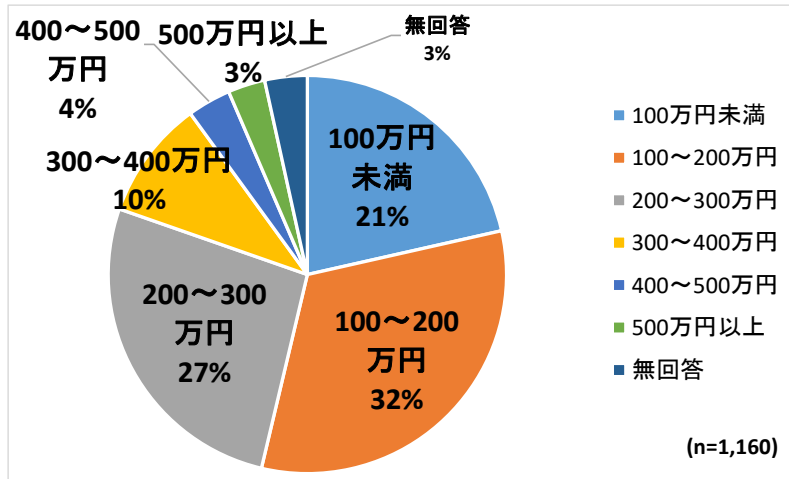


図 8 2024年の世帯所得（予想）

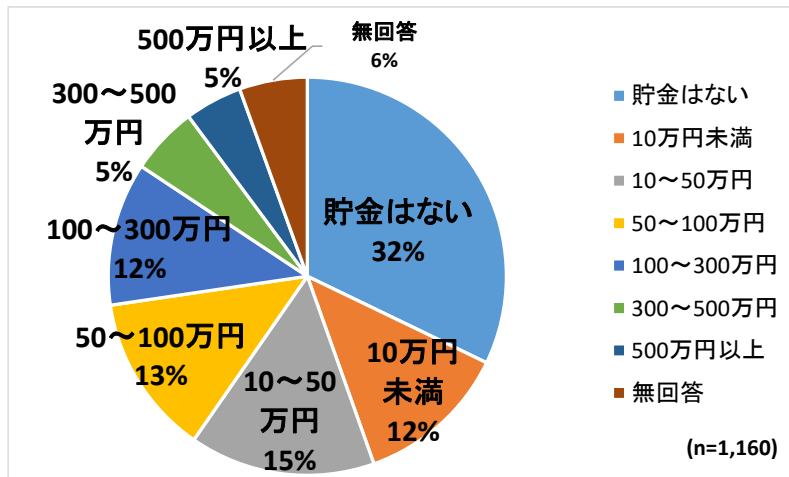


図 9 2024年10月時点の貯蓄額

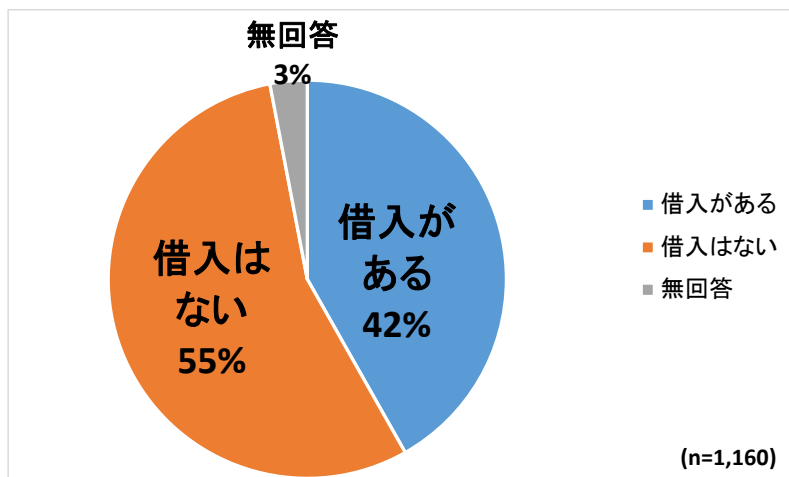


図 10 借入の状況

3.2 子どもの大学や短大、専門学校等の受験

3.2.1 大学等受験や進路選択への家庭の経済状況の影響

家庭の経済状況が子どもの大学等受験や進路選択に影響していると思うかとの質問に対して、約 9 割が「とてもそう思う」(87%)と回答した。具体的に考えられる影響としては、「塾・予備校に通うことができない」(75%)、「受験料を抑えるため、受験校数を絞る」(65%)、「進学先が自宅から通える範囲の学校に限定される」(56%)を選択する回答者が多かった。「進学をあきらめて就職を選ぶ」との回答も 35%あった。「進学をあきらめて就職を選ぶ」の回答割合は所得が低いほど高く、所得 100 万円未満では 46%に達した。

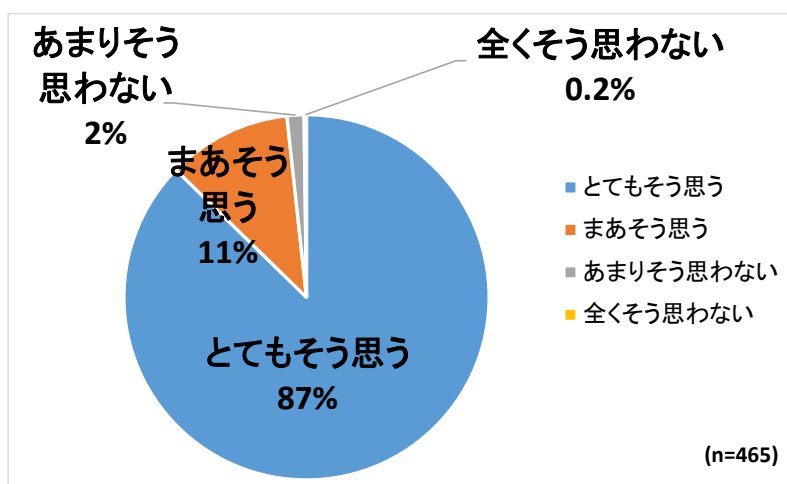


図 11 家庭の経済状況が子どもの大学等受験や進路選択に影響していると思うか¹

¹ 高校生以上の子どもがいる方が対象。

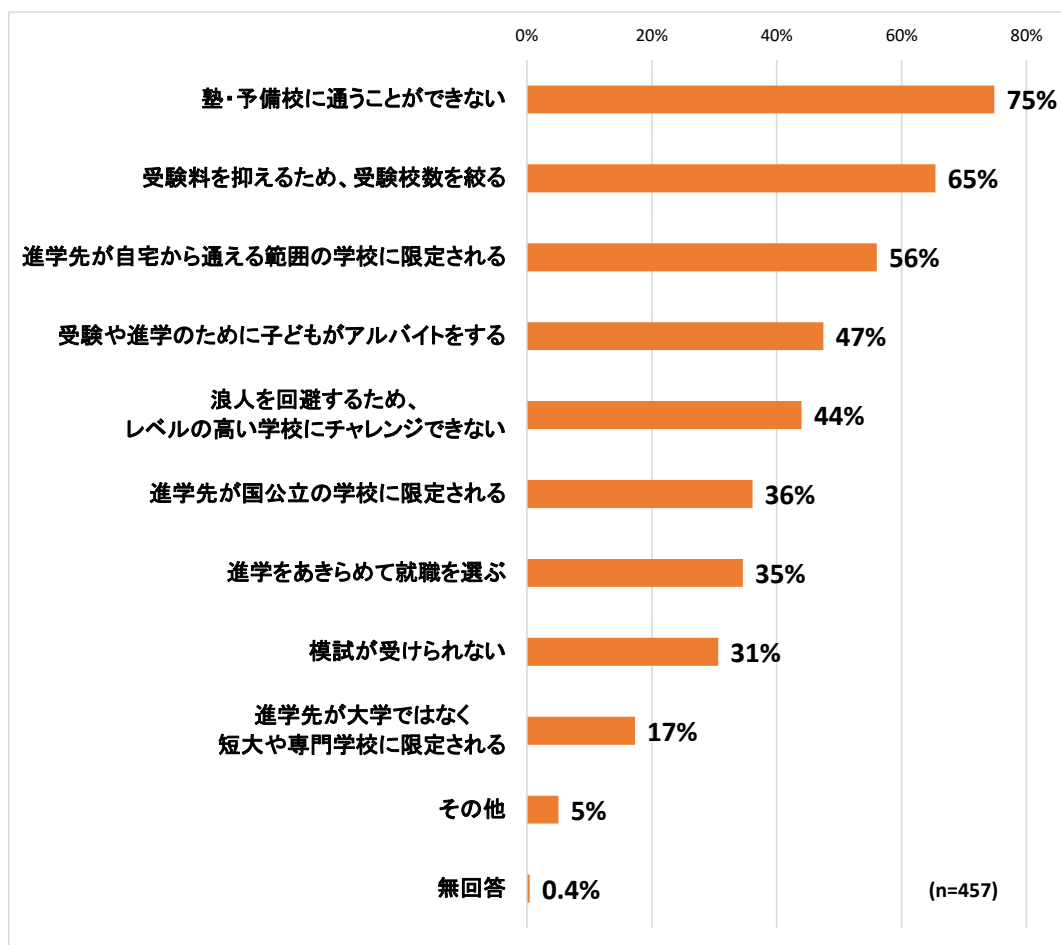


図 12 具体的にあると思う家庭の経済状況の影響（複数回答）²

² 高校生以上の子どもがいる方のうち、「家庭の経済状況が子どもの大学等受験や進路選択に影響していると思うか」との質問に対して、「とてもそう思う」または「まあそう思う」と回答した方が対象。

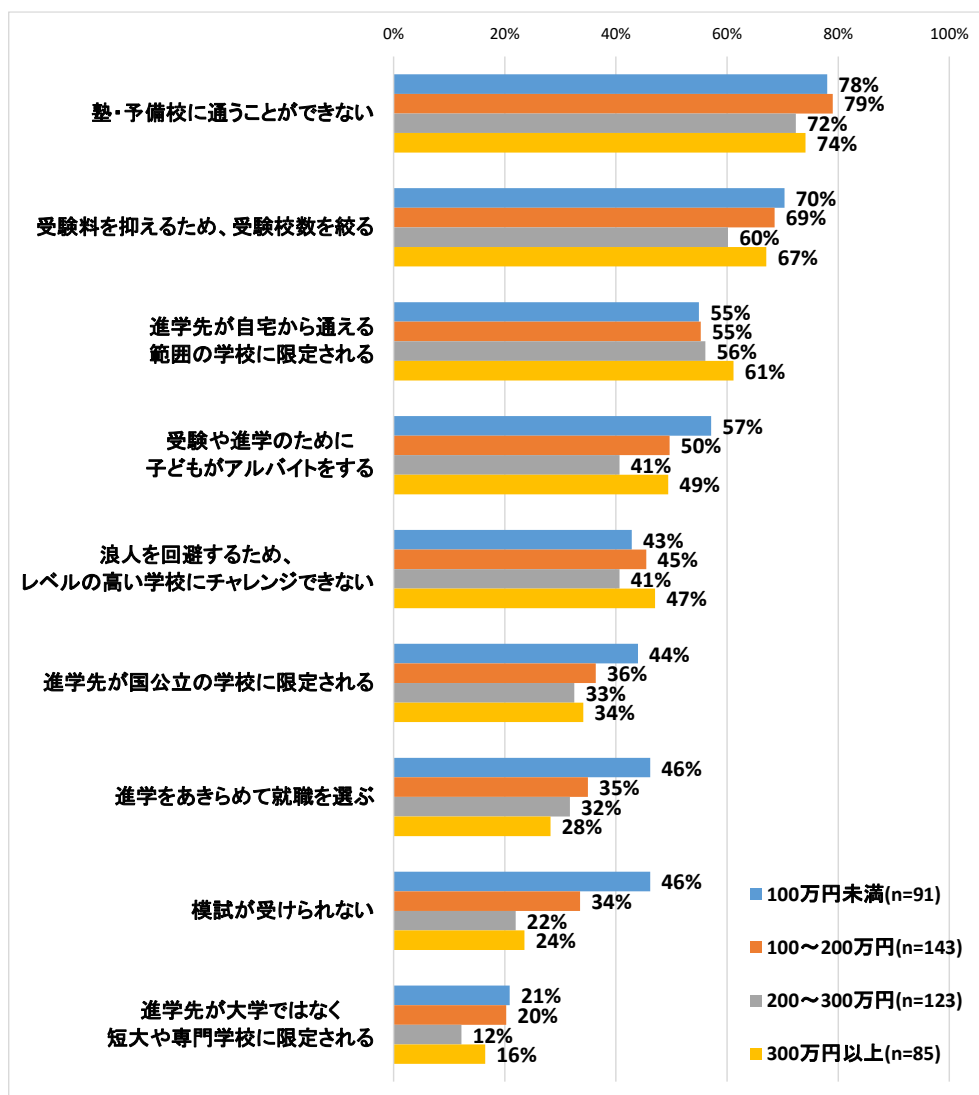


図 13 【世帯所得別】具体的にあると思う家庭の経済状況の影響（複数回答）³

3.2.2 大学等受験に必要なお金と準備手段

受験にかかる費用として半数以上が「100万円以上」（55%）と考えており、塾や予備校、模試、受験料、入学金等の納付金など進学前の段階で多額のお金が必要になることは多くの保護者が認識している。

高額な費用の準備手段としては「仕事を増やす」（62%）が最も多く、「保護者の貯蓄」（48%）、「子どものアルバイト」（40%）が続いた。借入の中で最も多いのは「自治体や社会福祉協議会からの借入」（35%）であり、「家族・親戚からの借入」（28%）が続く。約6割は受験費用の準備手段として何らかの借入を選択している。

受験費用の準備手段を世帯所得別に見ると、所得300万円以上では「保護者の貯蓄」が最も多い。また、所得200万円未満で「仕事を増やす」や「子どものアルバイト」、「自治体・社会福祉協議会からの借入」の回答割合が所得200万円以上よりも高い、所得が低いほど「わからない」の回答割合が高いといった結果が得られた。子どもの人数別に見ると、子どもが3人以上の家庭では、銀行やクレジットカードな

³ 高校生以上の子どもがいる方のうち、「家庭の経済状況が子どもの大学等受験や進路選択に影響していると思うか」との質問に対して、「とてもそう思う」または「まあそう思う」と回答した方が対象。

ど「自治体や社会福祉協議会からの借入」を除いた借入の回答割合が高くなっている。

借入に着目すると、所得に関わらず、何らかの借入の利用を考える家庭が6割程度、銀行・クレジットカード・消費者金融のいずれかの借入の割合が3割程度となっている。子どもが多いほど受験費用も高く、子ども3人以上の家庭では、40%が、家族や親戚、公的機関からの借入ではなく、銀行・クレジットカード・消費者金融のいずれかの借入を考えている。

基本属性の貯蓄額で示したように、困窮子育て家庭の家計は日々の生活を回すだけで精一杯であり、貯蓄もままならない状況にある。そのような中で、年間所得の数十%にも及ぶ受験費用を就労や貯蓄だけで確保することは非常に難しく、公的な支援の必要性が示唆されている。

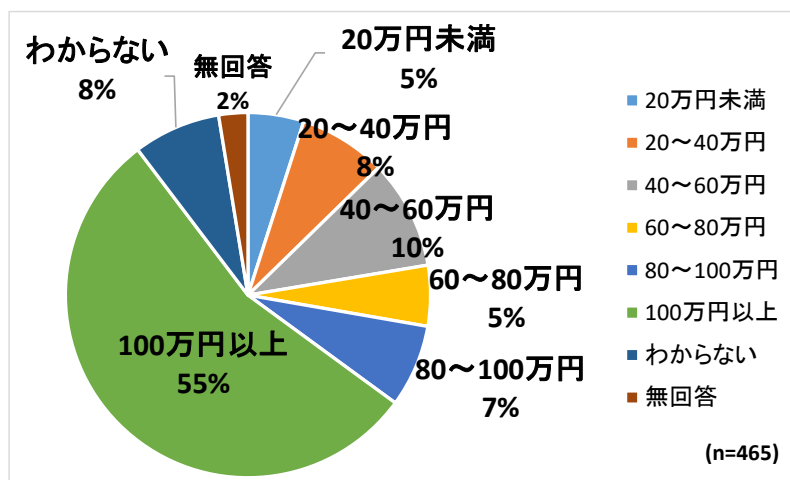


図 14 大学等受験に必要なお金はどのくらいかと思うか⁴

⁴ 高校生以上の子どもがいる方が対象。

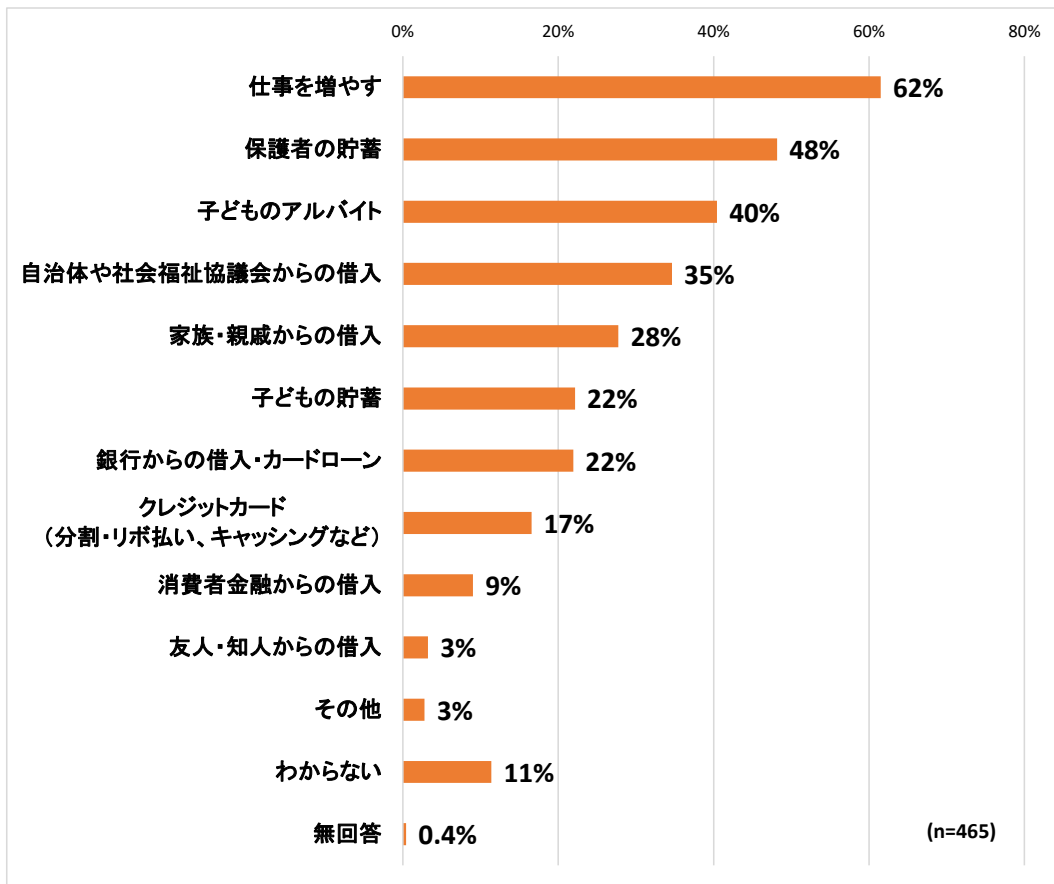


図 15 大学等受験に必要なお金を準備する手段（複数回答）⁵

⁵ 高校生以上の子どもがいる方が対象。

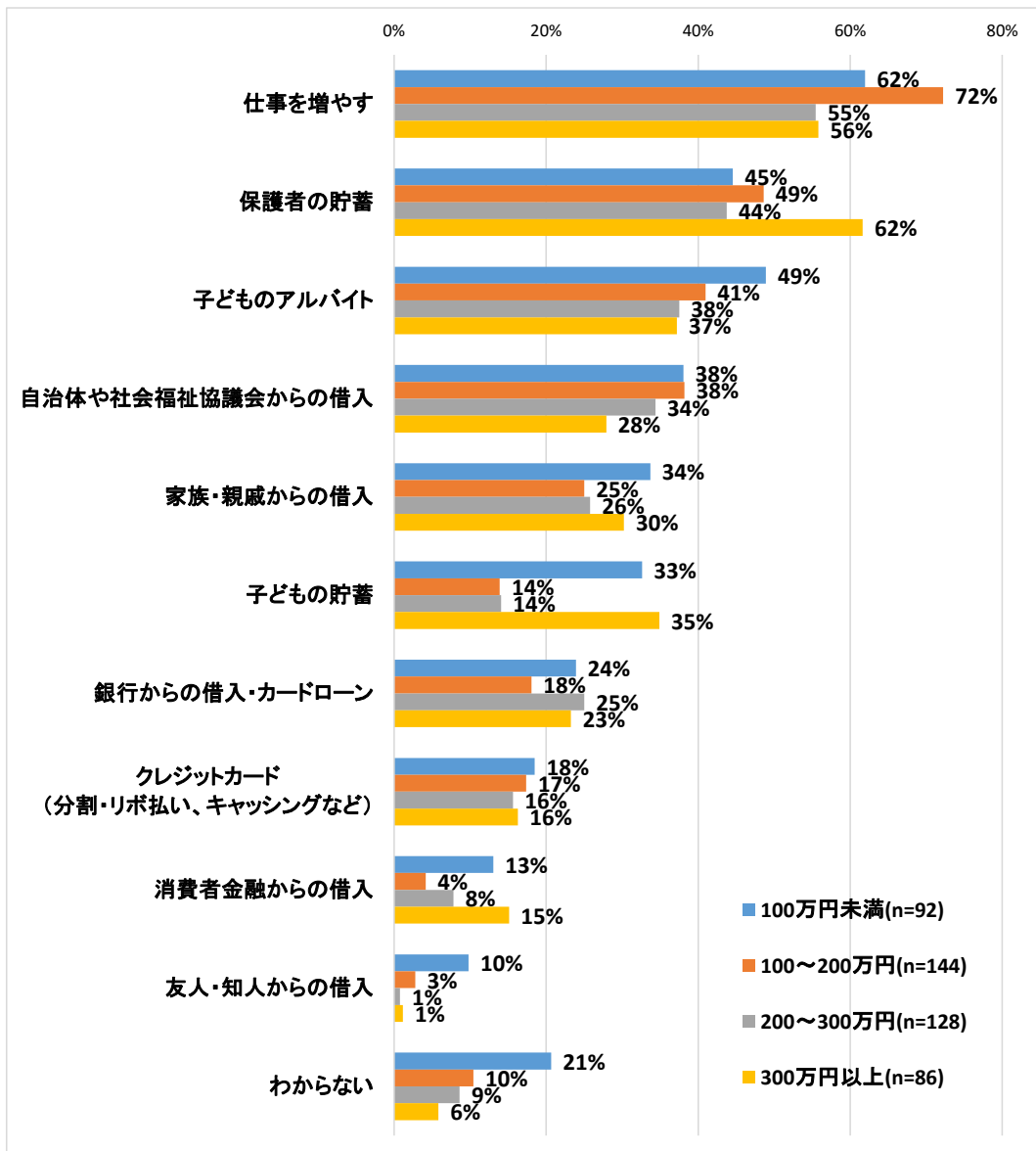


図 16 【世帯所得別】大学等受験に必要なお金を準備する手段（複数回答）⁶

⁶ 高校生以上の子どもがいる方が対象。

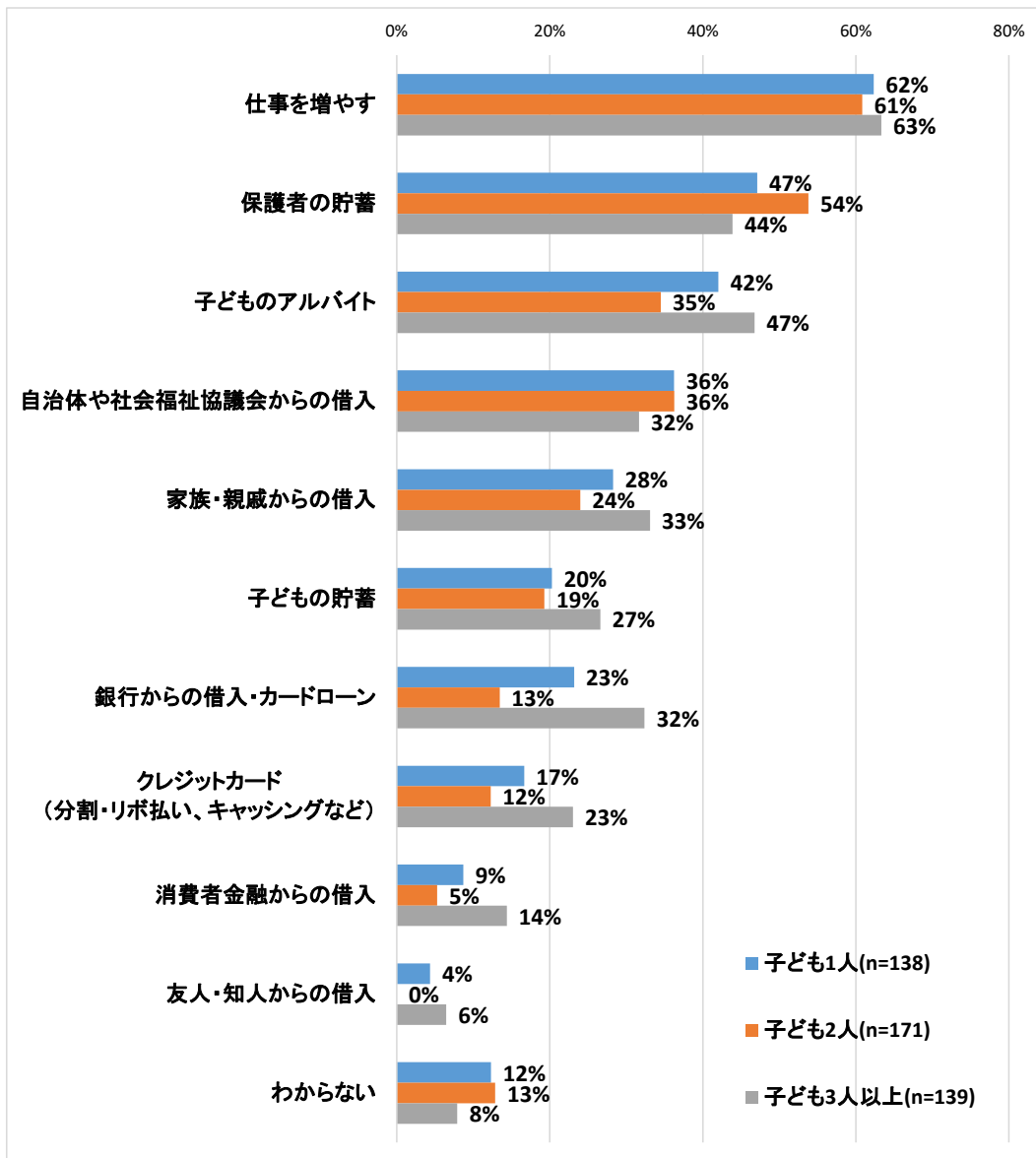


図 17 【子どもの人数別】大学等受験に必要なお金を準備する手段（複数回答）⁷

⁷ 高校生以上の子どもがいる方が対象。

表 1 大学等受験に必要なお金を準備する手段 借入の利用⁸

		何らかの借入を利用	銀行・クレジットカード・消費者金融からの借入を利用
所得別	100万円未満	66%	33%
	100～200万円	60%	27%
	200～300万円	66%	31%
	300万円以上	59%	29%
子どもの人数別	子ども1人	64%	31%
	子ども2人	57%	21%
	子ども3人以上	68%	40%

3.2.3 大学等受験での保護者のストレスや負担

子どもの大学等受験についてのストレスや負担としては、「受験や進路について、子どもが家計の状況を気にしている」との回答が75%と最も多く挙げられた。「受験期の子どもの心身のサポートが十分にできない」(51%)・「受験期の子どものためにしていることに自信が持てない」(49%)という、子どもへのサポートについて保護者が抱える葛藤や不安も半数程度が選択した。塾や予備校に通うことができない家庭も多い中で、「子どもの受験や進路について相談する相手がいない」(36%)や「学校の進路指導が十分ではない」(28%)など、保護者以外にサポートしてくれる存在、保護者にとっての相談先が不足しているとの回答も3割程度あった。

⁸ 「何らかの借入を利用」は、「家族・親戚からの借入」・「友人・知人からの借入」・「自治体や社会福祉協議会からの借入」・「銀行からの借入・カードローン」・「クレジットカード(分割・リボ払い、キャッシングなど)」・「消費者金融からの借入」のいずれかを選択した割合。「銀行・クレジットカード・消費者金融からの借入を利用」は、「銀行からの借入・カードローン」・「クレジットカード(分割・リボ払い、キャッシングなど)」・「消費者金融からの借入」のいずれかを選択した割合。

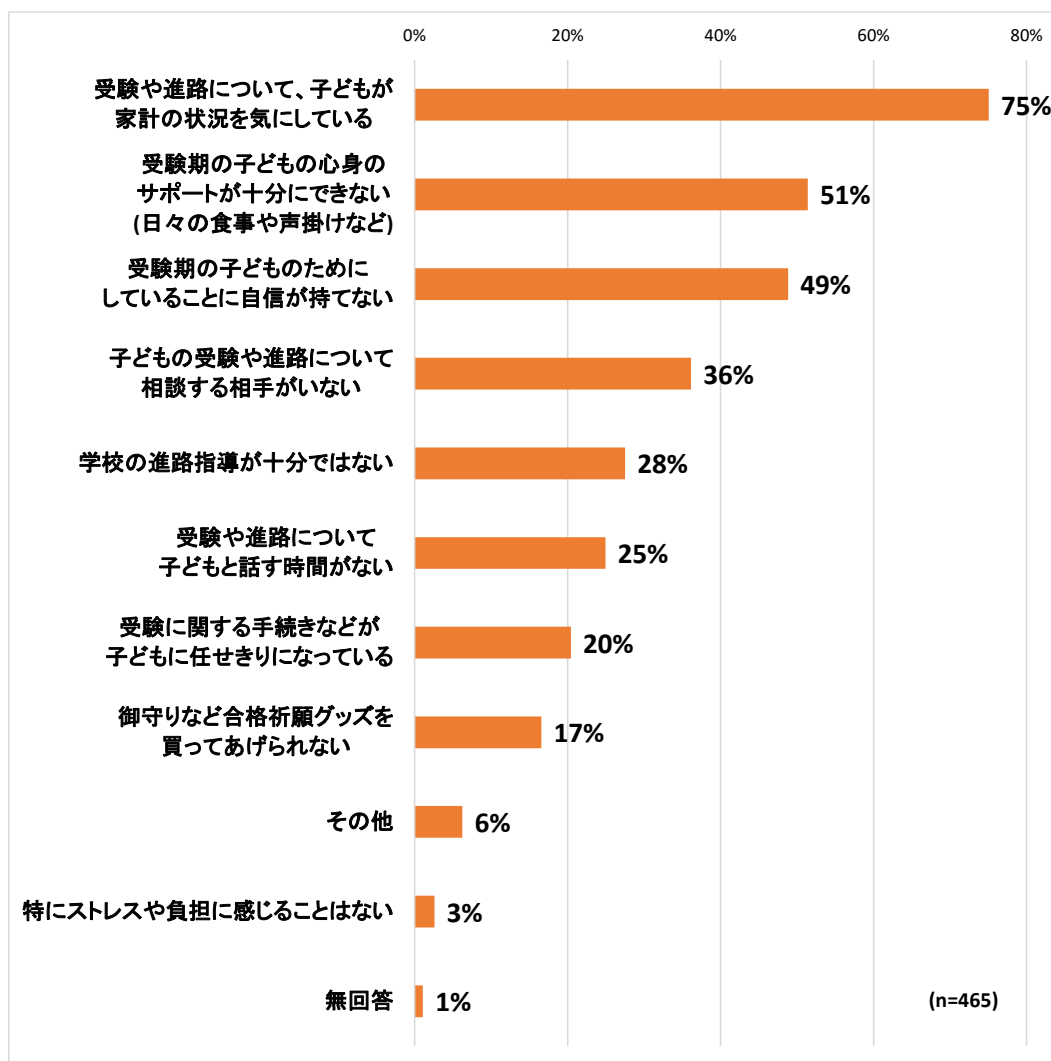


図 18 子どもの大学等受験についてストレスや負担に感じること（複数回答）⁹

3.2.4 大学等受験への公的支援

大学等受験への公的支援があれば子どもの進路選択の幅を広がると思うかとの質問には、約9割が「とてもそう思う」(91%)と回答した。具体的に求める支援では、選択肢として挙げた6項目のいずれも回答割合が6割を超えており、大学等の受験に様々な支援が必要とされていることがうかがえる。

子どもが自身の進路を考えると、進学が現実的な選択肢となるには、進学後の経済的な見通しを持つことが重要である。進路選択の幅を広げるための最初の支援として「進学後の給付型奨学金の対象拡大」(85%)は欠かすことができない。また、進学を選択肢として考え始めたとしても、困窮家庭では塾費用や受験料が用意できずに断念してしまうケースも多い。このようなケースに対しては、「受験料の補助・免除」(84%)・「受験に活用できる奨学金の拡充」(73%)・「塾・予備校費用の補助」(71%)が有効な対策となる。

大学等の受験について、困窮家庭からは、給付型の奨学金を増やしてほしい、奨学金支給前に支払う必要のある入学金等をどうすればよいのか、子どもが家庭の状況を気にして進学をあきらめたなど、大学等受験に関する要望や不安を伝える声が寄せられている。

⁹ 高校生以上の子どもがいる方が対象。

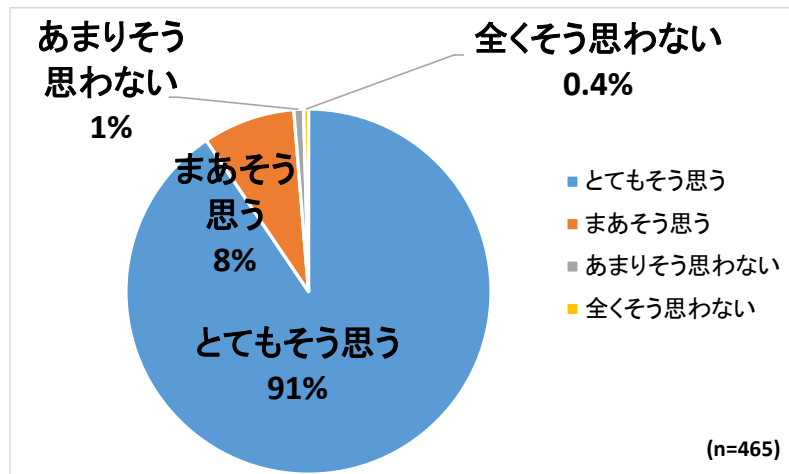


図 19 大学等受験への公的支援があれば子どもの進路選択の幅が広がると思うか¹⁰

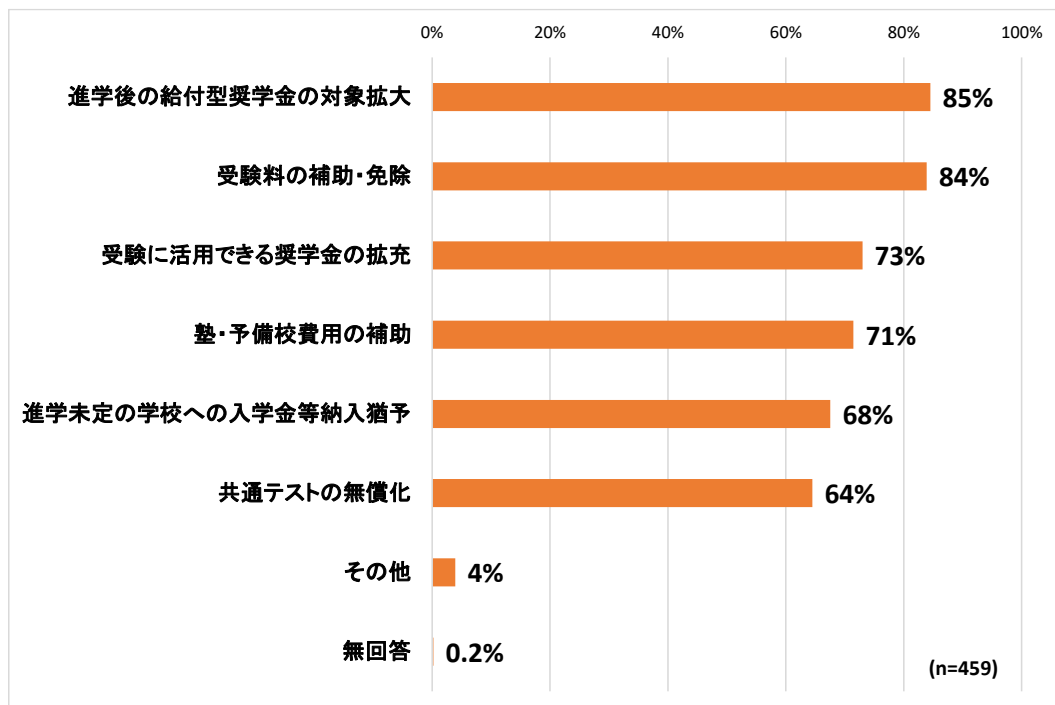


図 20 あるとよいと思う大学等受験への公的支援（複数回答）¹¹

¹⁰ 高校生以上の子どもがいる方が対象。

¹¹ 高校生以上の子どもがいる方のうち、「大学等受験への公的支援があれば子どもの進路選択の幅が広がると思うか」との質問に対して、「とてもそう思う」または「まあそう思う」と回答した方が対象。

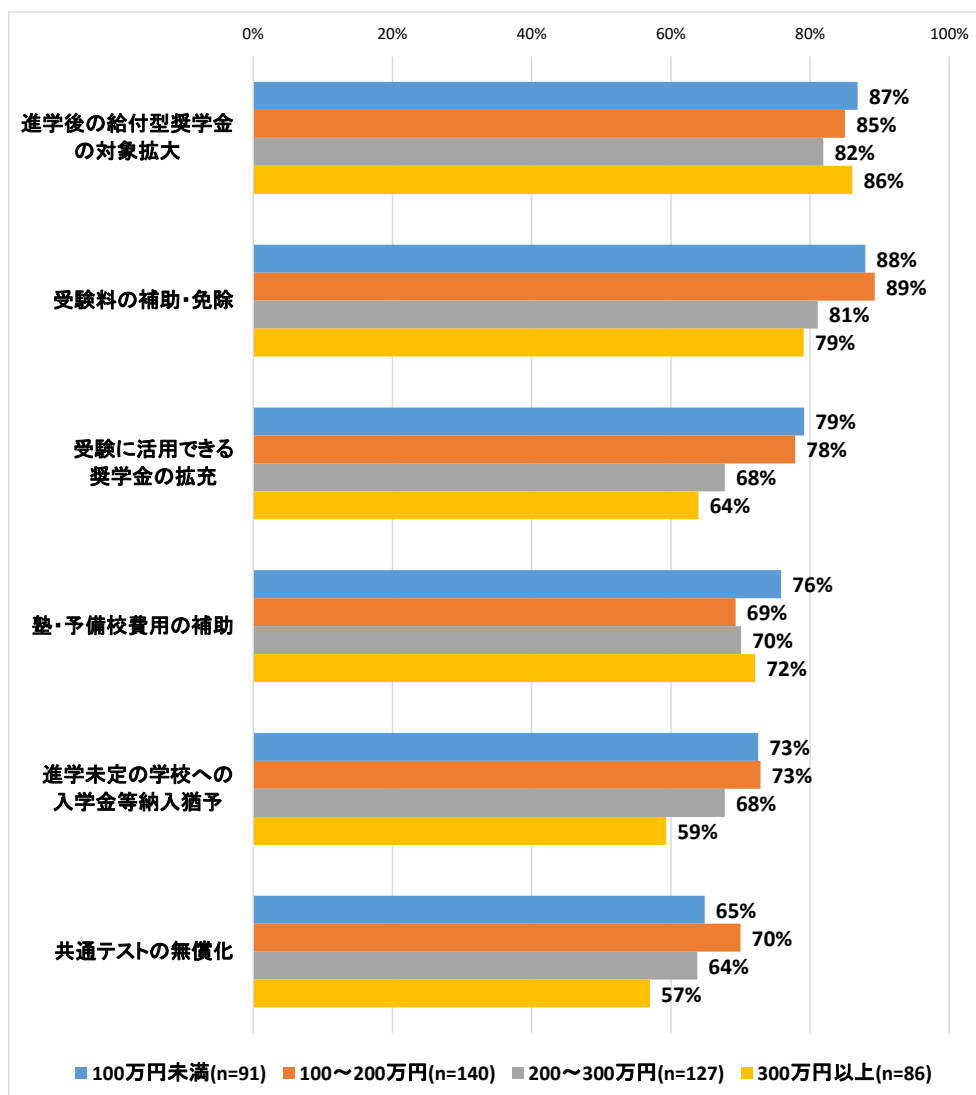


図 21 【世帯所得別】あるとよいと思う大学等受験への公的支援（複数回答）¹²

表 2 大学等受験に関する子育て家庭の声
(自由回答、一部抜粋・引用者にて編集)

- 今 1 番不安な事は大学進学するにあたり、受験費用や大学費用の工面ができるかどうかです。給付型奨学金の収入制限が低すぎます。支援拡大を切実に願います。私の収入だといいと三分の一支給ですが、医学部を目指している子供の学費はどうい工面できないです。
- 東京の私立大学で下宿することを考えると高額で不安です。大学の給付型奨学金を増やしていただくととても助かります。
- 今は独身時代の貯蓄があるのでなんとかありますが、10年後、20年後を考えると頭が痛いことばかりです。義務教育でなくなった途端お金がかかるので、かなり厳しい状況です。せめて、学費が安くなるか、返済不要の奨学金の枠が広がればと思います。
- 大学に入るための奨学金の情報が欲しいです。
- 大学進学についてですが、合格通知を受け取った後、奨学金の手続きが出来ますが一旦自分で払わなければいけない事に困っています。奨学金申請して決定後に、自分で払わず直接奨学金が受け取れるとあ

¹² 高校生以上の子どもがいる方のうち、「大学等受験への公的支援があれば子どもの進路選択の幅が広がると思うか」との質問に対して、「とてもそう思う」または「まあそう思う」と回答した方が対象。

りがたいです。それが今の大学進学が一番の不安です。

- 子供が今まさに自己推薦型で大学受験をしようとしているが、決まったところで2週間以内に100万円程払わなくてはならず、その間に先の受験料も子供がバイト代から払っています。塾代も1教科で5万と高く、奨学金が出るまでの負担が大きい。
- 子供が大学に進学したいと言われると、母子家庭で子供を大学に行かせるのは経済的に負担が大変で、入試試験代や参考書、交通費がかかるので一時金を支援してほしいです。
- 大学受験を独学では難しいと思うが、塾に行かせる余裕もない。本気で学びたい子には塾代も補助が欲しい。大学受験について学部選択や受験の方法などの相談にのってほしい。
- 私自身が大学受験をした経験がない為、大学受験の事が余りにもわからない事ばかりで子供に任せっきりで、両親の介護で疲れてしまい、介護も子供に手伝って貰っている状態です。この状況が改善されればいいなと思っています。
- 物価高で全てが高く、食べ盛りの子供達に十分な食事も出せない。進学させてあげたかったが、子供自身が家庭の事を気にして進学を諦め就職を希望してしまった。子供の未来を潰してしまってるみたいで、居た堪れない気持ちになります。国から母子家庭への支援をもう少し広げて欲しい。
- 高校三年の子供が、学費の安い看護学校を進学先を選びました。もし、入学試験に落ちたら、就職すると言っています。きっと、家庭の事を考えてだろうと思うと申し訳ない気持ちになります。

3.3 コロナ禍における特例貸付（緊急小口資金・総合支援資金）の利用

全体の約2割がコロナ禍において緊急小口資金等を「利用した」（19%）と回答した。緊急小口資金等を利用した回答者のほとんどが借入は日々の生活のために絶対に必要だったと考えており、緊急小口資金等の利用が初めての公的貸付制度の利用だったという回答者も約9割を占めた。緊急小口資金等を利用した家庭にとって、コロナ禍における収入減少と生活への打撃がこれまでになく深刻なものであったことがうかがえる。借入額として最も多かったのは「80万円以上」（35%）であった。

緊急小口資金等は住民税非課税等の条件を満たした場合、申請することによって返済が免除される。本調査では、緊急小口資金等を「利用した」回答者のうち85%は返済免除になっていることが分かった。一方で、返済免除にならず、返済が滞りがちとの回答が10%あった。2024年の世帯所得別に見ると、所得200万円未満では返済免除が9割以上であるが、所得200万円以上では6割程度に止まる。

返済免除とならなかった回答者の約7割が、返済が家計にとって「とても負担である」（73%）と感じている。返済が生活に及ぼす影響としては、「返済についてのストレスや不安が増えた」（85%）、「保護者の食事を減らした」（67%）、「子どもの衣服や靴等の購入を控えた」（55%）が多く挙げられた。少数ではあるが、「返済のために他の借入をするようになった」（42%）、「子どもの進路を経済的負担の少ないものに変更した」（27%）といった深刻な影響もあった。「特に影響はない」との回答は0%であった。返済免除とならなかった回答者の中には、収入がわずかに基準を超えたことで返済が必要となったケースもあった。

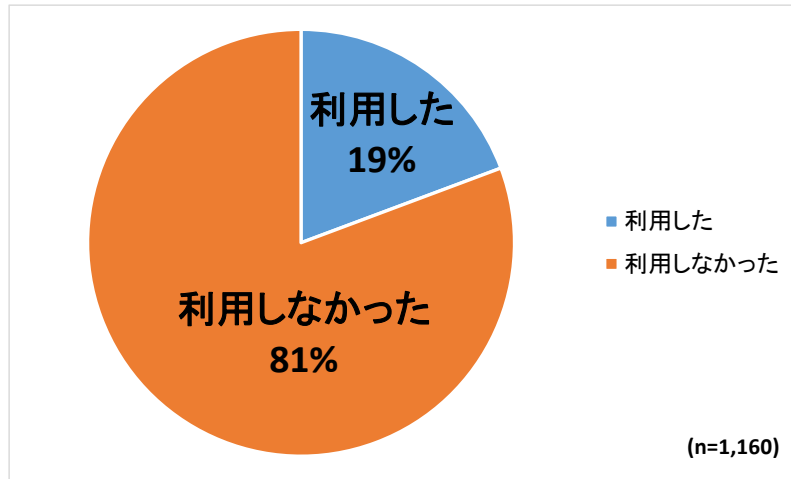


図 22 緊急小口資金等の利用状況

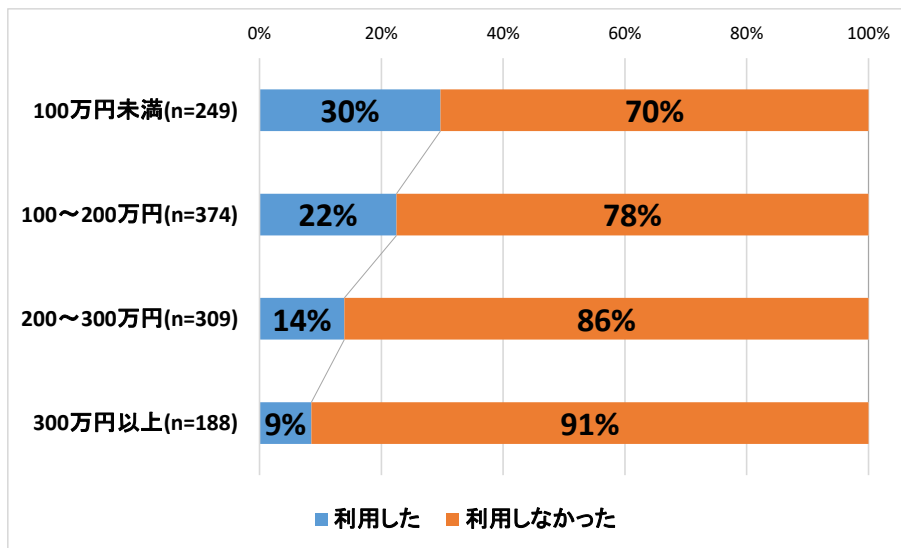


図 23 【世帯所得別】緊急小口資金等の利用状況

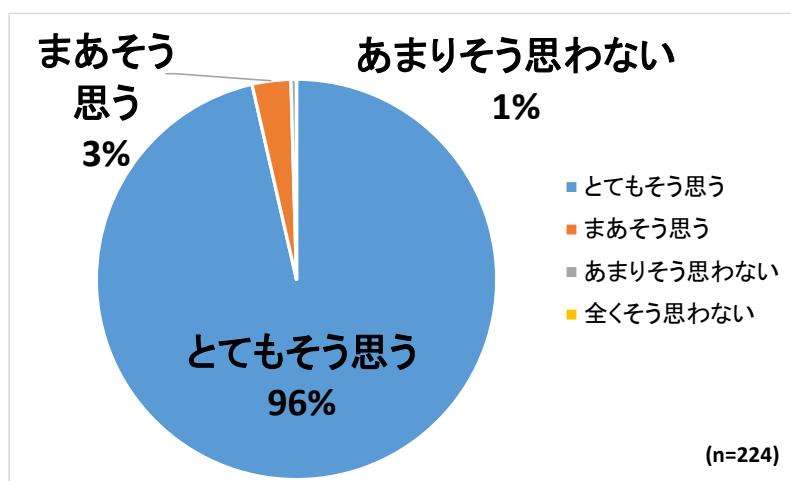


図 24 緊急小口資金等の利用は絶対に必要だったか¹³

¹³ 新型コロナウイルス流行時に緊急小口資金等を「利用した」と回答した方が対象。

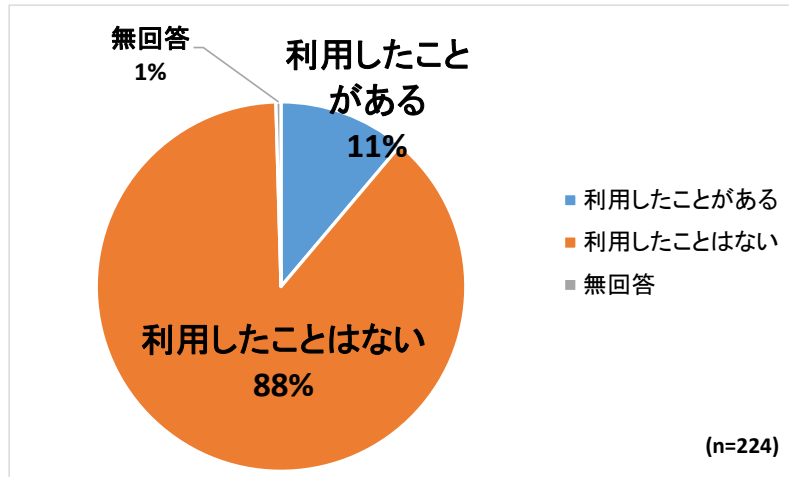


図 25 コロナ禍より前の公的貸付制度の利用経験¹⁴

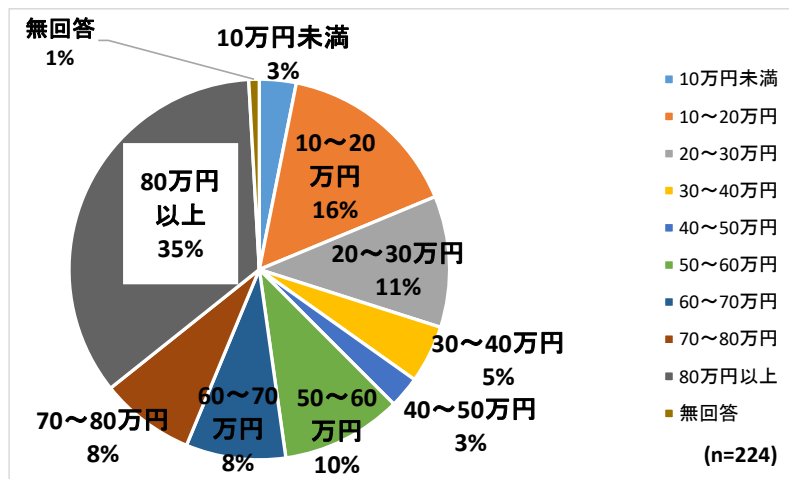


図 26 緊急小口資金等の借入額¹⁵

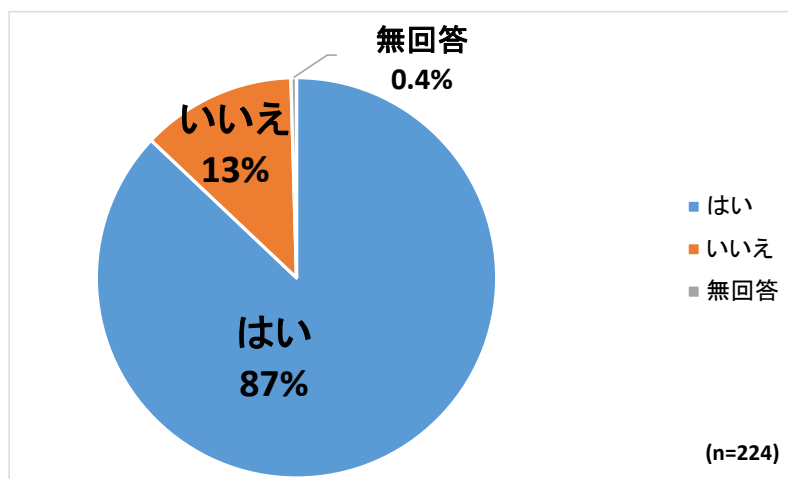


図 27 緊急小口資金等の申請時に返済が必要になると思っていたか¹⁶

¹⁴ 新型コロナウイルス流行時に緊急小口資金等を「利用した」と回答した方が対象。

¹⁵ 新型コロナウイルス流行時に緊急小口資金等を「利用した」と回答した方が対象。

¹⁶ 新型コロナウイルス流行時に緊急小口資金等を「利用した」と回答した方が対象。

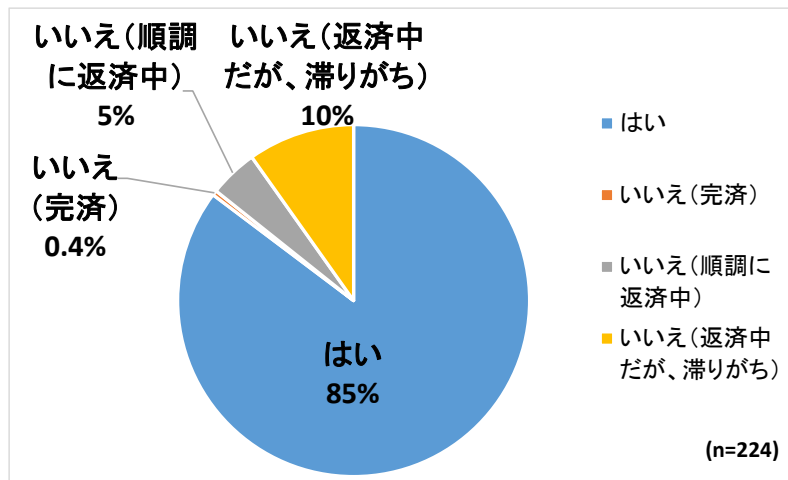


図 28 緊急小口資金等の借入は返済免除になったか¹⁷

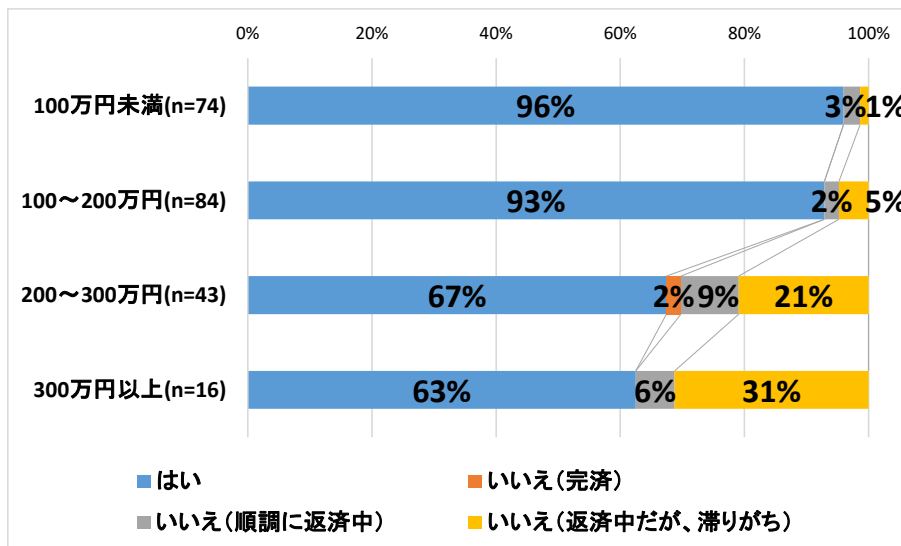


図 29 【世帯所得別】緊急小口資金等の借入は返済免除になったか¹⁸

¹⁷ 新型コロナウイルス流行時に緊急小口資金等を「利用した」と回答した方が対象。

¹⁸ 新型コロナウイルス流行時に緊急小口資金等を「利用した」と回答した方が対象。

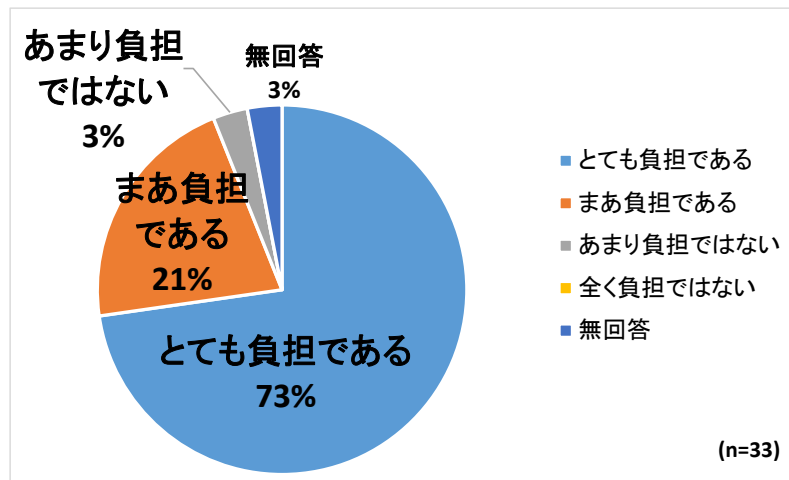


図 30 緊急小口資金等の返済による家計の負担¹⁹

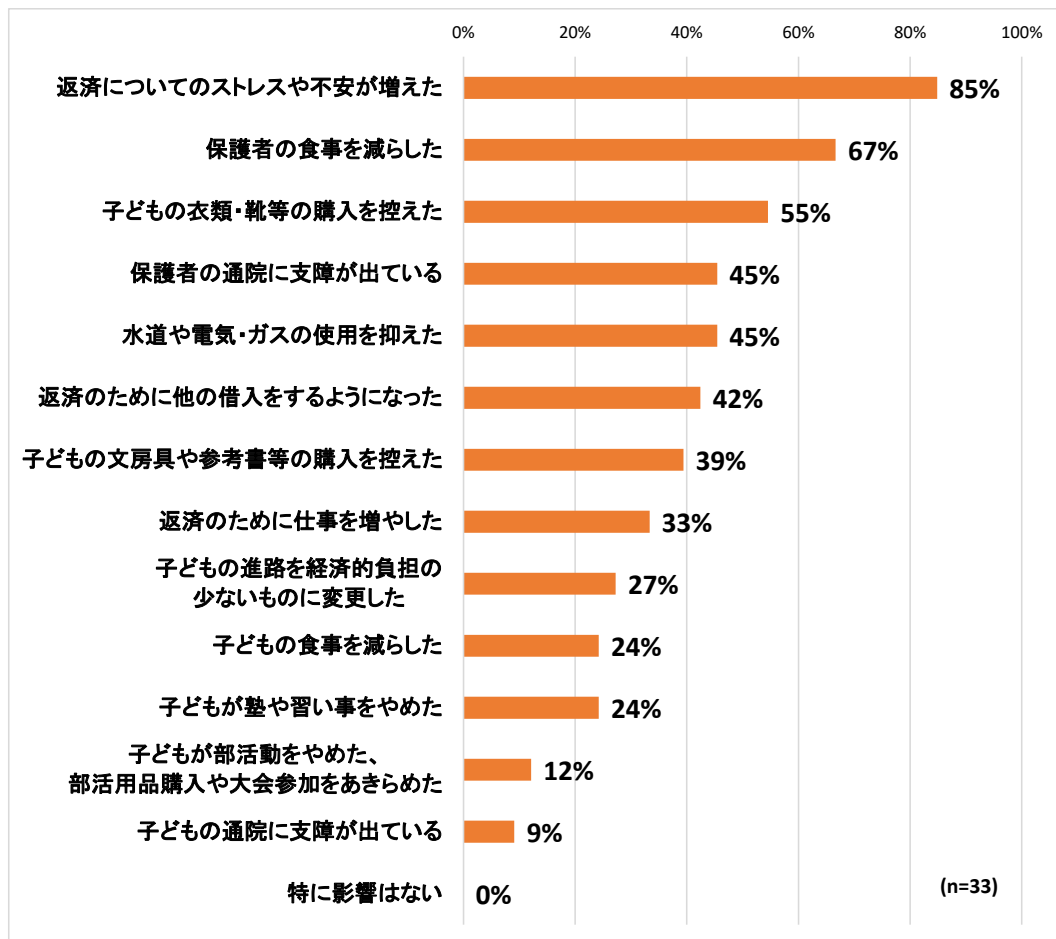


図 31 緊急小口資金等の返済による生活への影響（複数回答）²⁰

¹⁹ 新型コロナウイルス流行時に緊急小口資金等を「利用した」と回答し、かつ返済免除になっていない方が対象。

²⁰ 新型コロナウイルス流行時に緊急小口資金等を「利用した」と回答し、かつ返済免除になっていない方が対象。

表 3 緊急小口資金等の返済のための困りごと
(自由回答、一部抜粋・引用者にて編集)

- 返済免除は非課税になった場合だと思いますが、生活が大変なため年間 30 万程度の副業を増やしたことで課税世帯となってしまう返済義務が発生しました。生活は全く楽になっていません。
- どうにかありませんか、と窓口へ電話しましたが「どうにもなりません」とだけ。昨年、2 万円だけ、所得が超え「非課税世帯」から外れました、ショックでした。住民税は非課税均等割です。たった 2 日出勤しなければよかった、と悔やみ、仕事を辞めました。
- 生活が苦しいからお借りして助けていただいた事は感謝しているが、生活を立て直そうと仕事を頑張ったら年収が少しかけオーバーしてしまい非課税世帯から外れ、免除にならず、また生活が苦しくなった。何の為に頑張ったかわからない。
- なんとか仕事が見つかったのですが数千円のラインで返済免除ではなく返済対象となりましたが物価も上がり返済出来ておらず犯罪者の気分で見持ちは沈みがちです。どこに相談していいのかわからない。
- 非課税者は免除されて、わずかな均等割で課税担っている対象者は、半免にもならず、返済しなければいけないのだが、この差がどうしても納得がいかず、1 年かけてでも返せるかが不安。
- コロナ禍以降も収入が上がらず、毎年住民税所得割非課税だが、均等割非課税ではないので免除の対象にはならず、返済開始猶予を申請しました。所得割非課税でもひとり親家庭等は一部免除になる措置もできたと知り、県の社会福祉協議会に電話相談したが猶予期間は返済できていない期間とみなされず、申請対象にならないと言われました。条件を緩和してもらえるとありがたいと思います。
- 飲食店経営のためコロナで途絶えた客足が戻らないまま返済が開始になった。物価高で客足も減り、生活が苦しい。
- 返済の為に子供に影響しないように自分のお金を抜いたりして厳しい生活をしています。
- コロナ時代に経済的に大変だったけど、今の方が返済があるし、物価や子供の出費で本当に大変で破産しそうだし、夫婦で喧嘩も増えている。
- 返すどころか今現在の生活も厳しく、給付金も無いから借金だけ増えていっている。
- 返済の為に資金を別から借りる自転車操業状態に。

3.4 困っていることや支援がほしいこと

現在困っていることや支援がほしいこととして、住民税非課税や児童扶養手当受給の所得上限の見直しを求める回答が多く見られた。所得が境界線で何の支援も受けられない、低所得ばかりでなく隠れた貧困にも支援がほしい、収入を増やそうと頑張ると児童扶養手当はなくなり、色々な支援も審査で落ちるといった声が寄せられている。多くの支援が児童扶養手当受給を条件にしていることについて、改善を求める声もあった。

食料品や日用品、電気・ガス等の物価高騰による生活への影響を伝える回答も多く、子どもの食事に影響が出ているとの声も複数寄せられた。また、子どもの進学時にかかる制服や入学金等の費用、塾や習い事の費用を工面できないといった回答もあった。子どもについては、体験活動の機会、不登校の子どもへの支援、18 歳以上の子どもへの支援がほしいとの回答もあった。このほか、子育て中でも働きやすい仕事を求める声や、支援の地域格差の改善を求める声などが寄せられている。

表 4 困っていることや支援がほしいこと、キッズドアに伝えたいこと
(自由回答、一部抜粋・引用者にて編集)

- **公的支援の所得上限の見直し（住民税非課税、児童扶養手当受給等）**
- 大学無償化と言っても、所得が境界線で何の支援も受けられず、とにかく学費がかかり苦しいです。非課税や多子世帯ばかりの支援が多くなり、母子家庭の中での中間層あたりは、かなり厳しいと思います。
 - 低所得の方の支援ばかりで、ある程度の収入があると支援が受けられません。生活が苦しいのは一緒です。何より時間を犠牲にして働いているために収入が確保できるのであって、手当などの支援を十分に受けられるように時間などをセーブして働いている方がそれなりに多いと思っています。低所得ばかりでなく、隠れた貧困にも支援がほしいです。
 - いつも所得がありすぎでと支援がない。母子手当、養育費もない中、頑張ってるのに、支援されないことが多々あります。それなりに生活できるよう頑張っているのに、支援は差別なく平等に与えて頂きたい。頑張っている分損してる事がある。
 - 収入を増やそうと頑張ると、児童扶養手当はなくなり、色々な支援も審査で落ちる。非課税世帯や全部支給の人達が優遇される。つまりは収入を上げると見捨てられるということなので頑張るのが怖い。
 - 子供が大学卒業すると 50 代。就職不可能ではないか。また、正社員でちょっとはたらくと、大学無償化や母子手当、非課税ではいられなくなり、逆に支払いがキツくなるから今以上は働けない。
 - 生活がカツカツで、貯金出来る余裕なんて全くありません。給付金も非課税か住民税のみ非課税の人のみ対象だし、わたしみたいに年収 300 万以下なのに、ほぼ、そういうのは対象外です。給料も家賃光熱費払ったら手元に残るお金はほぼないです。
 - 総所得を上げて、増税と社会保険料の増額で手取り額が増えない。児童扶養手当も減額され、一生懸命働いても報われない世の中。所得制限額から、支援を受けられないことが多い。非課税世帯ばかり支援があり、ギリギリ中間層のひとり親も生活困窮していることをわかってもらいたい。
 - 非課税世帯などは支援があっても、中間層には支援がない。6 人家族なので生活はいつもギリギリ。生活の為に借金ばかり増え、子供達の学費も貯められず、塾にも行かせてあげられない。塾に行かないと成績が伸びない。お金がない世帯の子供達は将来日雇いや派遣など正規社員にもなれないのだろうかと思って子供達には申し訳ないなと思ってしまう。お金がない人は子供も産んではダメなんだなと実感している毎日です。
 - 稼ぎたいけれど「非課税世帯」でいなければならないジレンマ。
 - 国の給付金は非課税世帯ばかりで、課税世帯でも収入は低く、物価高に苦しんでいる。ひとり親世帯は、給付金の対象にしてほしい。
 - ふたり親世帯で、生活保護や住民税免除ではない世帯なので、受けられる支援が少なく困っています。
 - 収入を上げるために思い切って転職し、ギリギリ非課税から課税世帯になりました。課税されたら児童扶養手当は減額、医療費助成にも所得制限があり、非課税の時とさほど収入は変わらないのに当然ながら低所得世帯対象の給付金は受けられない。扶養手当の所得制限撤廃か緩和を希望します。
 - 児童扶養手当の所得制限を緩和してほしい。正社員で働いても子どものお金がかかり生活が苦しい。
 - 児童扶養手当の所得区分金額の見直しを政府に伝えて欲しいです。収入を増やしたくても、減額されたりストップになってしまうようなら稼ぐのをやめようと思ってしまいます。将来の

ためにお金を貯めたいのですがなかなかできません。

- 私は、手取り 20 万ほどあり児童扶養手当の受給対象から外れています。手取り 20 万で子供一人を育てていますが、一般の家庭として扱われています。私のような狭間のひとり親家庭の子供はすっかり置いてけぼりを食らいます。給付型の奨学金対象条件や子供向けのプログラムの参加条件が「児童扶養手当受給者」だからです。お金をくれとは言っていないので、せめてもその条件をはずしてほしいと切に願います。
- 児童扶養手当の支給額、所得制限額が実情とそぐわず大変苦しい。ひとり親に対する支援についても、住んでいる自治体で大きく差があるため、少しでも普通の生活に近づける様な政策を実現して欲しい。

➤ **物価高騰（食料品、電気・ガス料金等）**

- 物価高騰でとにかく毎日が苦しいです。食費すらクレジットカードで支払い、分割にしなければ支払いができません。子供のための貯金も切り崩さなければならなくなってきています。
- 物価高騰により、毎日の食事もしっかり食べさせてあげる事が出来ず、私自身も親の介護で金銭的余裕もないので、継続的なご支援を頂けたら、助かります。
- お米が高すぎて買えません。子供たちに満足な食事をさせてあげることができません。お菓子なんて贅沢品です。
- とにかく子供がたくさんご飯を毎日食べられるように、食の少しだけでもいいので提供や、無料の子供食堂などがあると助かります。親は毎日 3 食満足に食べられなくてもいいので、なんとか子供だけでもお腹いっぱい食べさせてあげたいと言う気持ちでいっぱいです。
- 食べ物が足りません。毎日毎日お腹すいたと言われて気が狂いそうになります。
- 物価高で食料品が購入出来ず、子供の健康に支障がでてきている。この冬もコタツでなんとか乗り切る予定ですが毎年季節を乗り切れるか不安です。食料支援が継続的に受けられると嬉しいです。
- お金が無く子どもたちは友だちと遊べず、食べるものもままならず、米のみしか食べることができない日が続いています。給食のない土日祝が 3 食食べられない上にお米のみ、申し訳なくて消えたくります。
- 毎月の生活費で給料がなくなりなかなか貯蓄できない状況です。食品や光熱費、住宅費に多く費やし、子供たちの衣類、下着、靴がぼろぼろでも新しく新調する余裕がありません。これから暖房費にかなり電気代がかかり今以上に消費が膨らみ不安でいっぱいです。
- 子どもが成長期で服や靴のサイズがすぐにサイズアウトしてしまいます。また、年頃なので、幼児期のように親が選んだ服を何でも着てくれることはなくなりました。それでも激安のお店や中古衣料品を買ってきたりしていますがまにあっていません。
- 食料品支援もありがたいのですが生理用品など日用品などの支援してもらえると 1 番助かります。娘が生理用品を気にして学校をずっと休んでいます。
- 生活用品の支援があるとすごく助かります。ティッシュやトイレトペーパーなど。

➤ **学校生活に必要な物品やお金**

- 長男が進学校に今年入学（公立高校）。模試代や副教材、毎月校納金とは別に集金があり、予想以上にお金がかかる。
- 中学や高校に上がる時に、制服代や修学旅行費などの大きな出費が不安です。
- 自分の稼ぎには限界があり毎月貯金もできないくらいギリギリで生活しており、金銭的支援が欲しいです。もうすぐ中学校に上がる予定ですが、制服代が高すぎて払えないかもしれないです。

- 現在、わたしが鬱状態の為休職中で、僅かにあった貯金はほぼ無くなりました。息子は来春に中学進学を控え、進学先の制服等を買揃える事が厳しい状況です。お下がりをお願いしようと思っておりましたが、昨日、進学予定の公立中学が来年度から新しい制服に変わるお知らせを子供が持ち帰りました。急な話で困惑しています。『誰か助けて』と心の中で繰り返し叫んでます。
- 学校生活に必要な物品、文房具、靴、部活の用具一式、遠征費、運動着等々、ほんとに細かな日常に必要な物、食費、勉強に必要な、テキストもなかなか買えなく、塾代も出してあげられない状況です。全てにおいて、本当にお金がかかりすぎて、諦めなければならない現状です。
- 高校の交通費の補助をすぐにでもお願いしたいです。家計が苦しい！
- 部活をやりたい息子ですが、道具やユニフォームが買えないため諦めています。未就園児には色々支援がありますが、高校生こそ色々お金がかかるので支援が欲しいです。
- 息子が受験生ですが、私の住む地域に私立の通信制高校しかないのに、生活保護制度は、県立にしか手当しか出ないらしい。健康で文化的な生活など送っていないのに、それについて問題にもなっていない。悔しくてたまらない。
- これからの高校進学で就学支援を受けようと思っておりますが、私立を選ぶと一旦学費の負担が必要です。かなり辛いです。支援があっても結局公立しか選べない、なので落ちるわけにはいかない、でも満足に塾に行かせられないのが子供たちに申し訳ないです。
- 来年高校と小学校への進学を控えているので2月か3月頃に現金の支援給付が正直ほしい。小学校はどうか就学援助でなんとかなるが、返済不要の奨学金は高等支援学校には適用されなさそうなので少ない貯金で何とか賄えるのか分からなくて不安しかない。乗り換え必要な交通費、入学金、制服等の諸経費など…あとから多少返ってくるお金はあるらしいが、まずは自費で全て揃えなければならないので正直足りなくなるのでは？と不安しかない。

➤ 塾や学習支援、習い事

- 来年中3の子どもがおり成績を上げるため、塾の科目1科目からできるだけ増やしたいが金銭的に余裕がない。
- 子供が高校受験になるが、塾に行かすことが出来ず、自宅で勉強する日々。なかなか学力も伸びず子供には申し訳ない気持ちです。
- 公立中学が塾ありきの指導になっている。通塾なしで高校受験が厳しい。
- 日々の勤務で子供へのフォローが中々出来ておらず、勉強面での不安があり塾も視野に入れているのですが、負担が大きいと感じております。
- 塾通いが叶わない子供のための冬季オンライン講習など企画してもらえると仕事上の親も、自宅学習している子供の勉強の心配もなく安心できると思います。
- 我が家ではこどもの勉強にかかるお金が不足していると感じます。例えば塾に通いたいのに通わせてあげられないなどです。良い成績を取りたくても、自宅での勉強だと限界を感じます。オンラインで家庭教師のようなサービスがあると嬉しいなと思います。
- 日々の生活で少し貯金が出来ていますが、塾へ行くお金にはなりません。学習支援があるといいなと思います。
- 子供を塾に通わせてあげたい、若しくは通信教育に通わせてあげたいです。苦手な科目の勉強をさせてあげたいです。また文章をかくことが苦手なので小論文なども通信教育があればいいな、と思っています。
- 家庭学習を見てあげたり出来る時間が作れずに悩んでいます。子どもは学習についていけず勉強嫌いです。分からない子に教えるのって本当に難しい！学習支援をして頂けたら嬉しいです。

- 子供の習い事の費用を毎月定額補助してほしい。
- 子供がスイミングに行きたいと言い出し、通わせ始めましたが年間 9 万円の会費がかかります。正直貯金から捻出しているので先が不安です。
- 塾や習い事の支援等もしてもらいたいです。子どもの未来を潰さない社会になってほしいです。
- 子どもがプログラミングが大好きなので1年契約のPCをレンタルして独学で使用していますが、永続して気軽に使えるPCが入手出来そうにありません。子どもの興味や学習に寄り添った支援があると良いなと思っています。

➤ 体験活動

- 子どもが親の年収、余裕によりキャンプや泊まりの体験がないと感じる。宿泊イベントを体験させたい。
- お友達が遊園地やテーマパークへ行ったという話を聞いて、娘も行きたがるのですが、チケットがあまりにも高額なのと、普段忙し過ぎて電車で片道1時間以上かかる場所へ行くのは疲れてしまい、気力、体力、経済的に連れて行く事が難しいなと困っています。
- 年末年始の世の中が賑やかになる時期は我が家はとても辛い時期になります。暑いのも辛いけど寒いのも参ります。大体のことはお金があれば解決することばかりだと思います。が、それは現状望めません。こどもと二人冬休みに何か特別な体験が出来たらいいなあ。
- 最低限の暮らしは出来ています。貯金はできませんが借入はしないよう努めています。ですが他のお子さんのように旅行に行ったり、習い事をしたり、特別なものを買い与えたりはできません。親同士は気を遣えますが子供同士だとなんでも話すため、長期休みや誕生日などの後はとても心が痛みます。そして子供も私に気を遣っているのかわがまを言わないようにしているのがわかり辛いです。
- 小学生の子どもに習い事やお出かけ、イベント等体験させてあげられない現状が続く、不憫なものと自身でも情けない思いがつのるので、参加型の無料イベントなどあればありがたいです。
- 体験不足がきになります。1度でも飛行機に乗らせてあげたい。他の国の文化に触れさせる経験をさせてあげたい。
- 職業やお金、経済の仕組みについて、こどもが気軽に話を聞かせてもらえる機会があれば良い。

➤ 不登校

- 不登校の息子に体験を増やしてあげたいと思っていますが、なかなか外へ出るのも面倒なようです。ボランティアや職業体験などしてあげたかったです。
- 子どもが病気がち、不登校気味。とにかく不安な毎日から抜け出したい。
- 子供が発達障害で不登校になってしまいました。子供の居場所が家しかないですが、働かないと生活出来ない為、1人で居させることがほとんどです。勉強面も心配ですが、他に居場所が出来ればなと考えています。不登校の為の支援などあれば教えていただきたいです。
- 発達障害グレーの子の居場所を作って欲しい。時間にこだわりのある子の登校サポートをしてほしい。学校内で介助してくれる介助員を増やしてほしい。じゃないと子供が学校にいけないんです。
- 子供達が不登校になってしまい、シングルマザーとして必死に全てのことを頑張りすぎてしまい、うつ病栄養失調になってしまい働けなくなりました。これからどうやって子供達を回復させればいいのか、その前に生活もどうすればいいのか。シングルマザー不登校支援をどうかお願いします!私達はただただ、一生懸命生きてきただけなのに。

➤ **18歳以上への支援**

- もし高校を卒業しても大学などでも受けられるサポートがあれば知りたいです。食料支援も大学生まで続けて欲しいです。
- ひとり親医療費、児童扶養手当を20歳まで延ばして欲しい。
- 手当を大学生、専門学生まで、広げてほしいですと国に伝えてほしいです。ひとり親家庭でも、一般の家庭に引け目を感じないような普通の暮らししたいです。
- 母子家庭ですが、高校を卒業すると全ての支援が打ち切られるので、その落差についていけません。政府自治体は表だっては言わないけど高校卒業したら進学せずに働けと言ってるのだと思います。通常の子家庭は昨今の物価高にも困ってるのに、大学進学など程遠いです。これでは貧困の連鎖を打ち切れなと感じます。
- 18歳以上の子供を扶養している家も援助していただきたいです。授業料などを支払うのが難しくお金を借りたくても自治体から借りるのはものすごく手続きが複雑で時間がかかるためカードローンなどをしてしまうのではないのでしょうか。うちも生活費のためにカードローンをしたことがあります。もっと公的に借りやすい制度にもしていただきたいです。
- 就職を決めた高3の息子の内定が決まりましたが、スーツ代などが今からかなり不安です。

➤ **保護者の就労**

- 時間帯フリーの在宅ワークの斡旋をして欲しい。
- 働きやすい時短の取れる仕事を紹介して欲しい。
- 地方でも就職ができるような在宅ワークの情報など共有していただけたらありがたいです。
- 在宅ワークをしたいが、パソコンが買えない。
- なかなか時間の融通のきくパート先が無いと私も今の職場になる前は思っていて、休みも取れないし休みにくいし、でも子どもはめっちゃくちゃ手がかかる子で精神的に参った時期もありました。ある程度休みの融通がききますという会社、小売店等の求人がもしも集められるのであれば、紹介して貰えると助かる人が多いのではないかと思います。
- 子ども2人が発達障害で私はパートで在宅ワークをしておりますが、給料は時間給なので毎月微々たるものです。療育施設等で働けて子どももそこに預けられるような制度があれば助かるのですが。
- 子育てに人気と言われるエリアに住んでいるが、弊害として子供の数が多く保育園も一時預かりなどの施設も激戦すぎて全く空きがなく頼る人がいない子育てに疲弊しています。金銭的な支援もですが、預け先の施設の充実を望んでいます。
- 病児保育が使いやすくなるといいなと思ってます。
- 子ども看護休暇の改訂を国に求めて欲しい。日数の上限撤廃もしくは子の人数分の付与、またどの企業も有給扱いになるようにして欲しい。小学校就学前から中学卒業まで取得可能な子の範囲を広げてほしい。上記、せめて日数を増やしてほしいです。

➤ **子どもに関する公的手当**

- 児童手当、一人目から金額上げて欲しい。
- ひとり親家庭は児童手当2人目から増額して欲しい。
- 手当での増額、学費免除を多子世帯だけでなく、一人っ子だけの世帯も助けて欲しい。
- 現在夫と別居中。離婚裁判をしているが児童扶養手当がもらえないのはおかしいと思う。
- 母子手当での額を、ちゃんと、1人分ずつ支給してほしい、2人目から支給額が減るのが納得できない、多子世帯は苦しい、人数増えるごとに支給額増やしてほしい、大学卒業まで。
- 我が家は中学生2人と未就園児1人で、年が離れているので、児童手当などの年齢でカウン

トされなくなるのが早いのでとても困る。3人育てている結果は変わらないのに、上と一回りちがう事でもらえる手当の額がだいぶ変わるのは不公平すぎる。そだてるのにかかる金額を含め、大変なのは同じです。何歳だろうと第三子は第三子です。

- 年齢が離れた兄弟がいますが、その場合、第三子以降の手当や高校修学費用の助成は対象にならないためショックです。

➤ 支援の地域格差

- 関東圏ではない地方にも教育面における支援の充実を切に願います。
- 田舎は関東圏や都市みたいに子供食堂やフードバンク等もないですし東京都のような手厚い子育て支援や給付もないので毎月定期的に地方（支援活動がない地域）へのお米や食料支援をして頂けると嬉しいです。
- 地方への支援が少なく感じます。ひとり親、非課税世帯への企業支援は都会に多いと思います。都会は物価も高いのでしかたないとはいえ、もう少し地方支援も増えてくれると嬉しいです。
- 東京から地方へ引っ越しました。こちらではひとり親家庭へのあらゆる支援や機会がないなと実感しています。あっても車でかなり遠い場所だったりします。なので、物品の送付はかなり助かります。

➤ その他

- ひとり親、自身の病気、子どもの障害。相談窓口がすべて異なるので、トータルで相談できる場所がほしい。もしくは連携してほしい。障害福祉の窓口で相談したあと、母子の相談員に相談すると全く違うアドバイスをされたり、1から自分の家の事情を説明しなければならなかったりする。個人情報のあることあると思うが、多方面に相談しなければならない、色々な窓口にも何度も足を運ばなければならないのは、正直しんどい。
- 会社の業績が悪く、2年連続で賃金カットの上、福利厚生もなくなり、一方的にインセンティブ制に変えられた。ボーナスはそもそもなく、賃金とともにモチベーションも下がり、世の中賃金アップの傾向にあるのになぜ自分だけ…と落ち込むことがある
- 同じ境遇の人たちと交流してみたい。話してみたい。悩みを相談できる相手がほしい。
- 現金給付の支援がほしいです。物価もあがり、私1人の給料では子どもたちに満足な食事(栄養)を与えることができません。
- 1番ありがたいのは現金やそれに似た支給があれば嬉しい。もしくは借入金の金利が高いので金利が少なくて保証人がいなくても借入れるところとかがあれば助かります。条件に合わず生活保護や福祉の利用をできない家庭のための貸付制度があれば助かります。
- 春から病気のために休職中です。傷病手当金だけでは生活できず、貯金を崩しながら生活しています。区にも相談しましたが助けになるような経済的な支援はありませんでした。
- 子供が大人になっても障害のある子供がいる家庭への支援があると良いです。不安です。
- 母子家庭専用のアパートなどもっと増やして欲しい。住宅手当が無く家賃だけで結構かかってしまうので毎月厳しいです。
- 養育費が未払いのため弁護士さんをお願いしているのですが、それでも未払いが増えていつてる状態です。国なり行政なりで未払い回避してもらいたいです。国の養育費強制支払い義務化をしてもらいたいです。
- 物騒な世の中なので子供の留守番中など1人のときの防犯対策支援があれば嬉しいです。

以上